

いわき農林水産ニュース

平成30年3月号(第157号) 発行 3月26日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



華やかな花を咲かせる旬の「ストック」は、茎がしっかりしていて花束に最適です

目次

- ・【特集】全国植樹祭……………p.1
- 〔管内の各種取組の実績(2~3月)〕……………p.4~
- 〔お知らせ・連載記事〕
- ・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー…p.7
- ・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果…p.9
- ・山菜の出荷制限の取扱いについて……………p.10
- ・霜による農作物被害にご注意!……………p.10
- ・山火事にご注意!……………p.10
- ・GAPコーナー……………p.11
- ・6次化商品紹介……………p.11
- ・補助事業紹介……………p.12

【特集】全国植樹祭

全国植樹祭へカウントダウン!

「木製地球儀」いよいよ浜通りへ

1 木製地球儀の引継式

2月26日(月)、いわき市役所市民ロビーにおいて全国植樹祭のシンボル「木製地球儀」の引継式が行われ、当所 滝口次長から清水いわき市長へ手渡されました。木製地球儀の巡回は平成29年6月16日に福島市から始まり、県内全ての市町村を巡回しています。中通りと会津での巡回を終え、今回いよいよ浜通りへと引き継がれました。

木製地球儀は3月1日までいわき市役所で展示された後、双葉町に引き継がれ、相双地方の市町村を巡回し4月17日に南相馬市に到着する予定となっています。



(引き継ぎの様子)

右：清水敏男いわき市長

木製地球儀について

「木製地球儀」は、21世紀最初の植樹祭が開催された「第52回全国植樹祭やまなし2001」において、新たな歴史を築いていく象徴として作製(制作は南砺市井波彫刻協同組合)されたもので、全国植樹祭のシンボルとして開催県に代々引き継がれています。

素材は、地球部分がヒノキ、葉部分がナラ、基台部分がケヤキでできており、地球環境の保全を果たす森林や林業の重要性が「木製の地球」、それを支える国民、企業、行政の3者が「3枚の葉」で表現されています。サイズは高さ60cm、幅50cm、重さ14.7kgです。



(展示された木製地球儀)

2 第69回全国植樹祭 ふくしま2018

全国植樹祭は、国土緑化運動の中心的行事として、昭和25年以来、毎年春に国土緑化推進機構と開催地都道府県との共催により開催されます。天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国各地から多数の参加者にお集まりいただき、式典行事や記念植樹が行われます。

本県では、昭和45年5月に猪苗代町天鏡台を会場とした「第21回全国植樹祭」が「後継者の森」をテーマに開かれ、天皇皇后両陛下のお手植えに続いて、県内外から2万3千人の参加者がアカマツの苗木を植えました。第69回全国植樹祭ふくしま2018は、48年ぶりに本県で開催される大会となります。

その間、本県においては、豊かな森林を守り育て、健全な状態で次世代へと引き継いでいくため、平成17年に「森林文化のくに・ふくしま県民憲章」を制定し、平成18年からは森林環境税を導入し、森林環境を適正に保全するための森林整備の推進や県民一人一人が参画する新たな森林づくり活動の推進など、緑あふれる県土づくりに努めてきました。

大会テーマ

「育てよう 希望の森を
いのちの森を」

シンボルマーク



福島県の形をモチーフに、「緑豊かなふるさと再生」と「豊かな森林を次世代に」という想いが込められています。

大会ポスター



3 全国植樹祭に向けた取組

全国植樹祭の開催理念を実現するため、県内各地で様々な記念事業を実施しています。いわき市内での取組は次のとおりです。

(1) 大会200日前カウントダウンスタートセレモニー

平成29年11月22日(水)、JRいわき駅構内にカウントダウンボードが設置・点灯されました。県内では、他に主要駅(福島駅、郡山駅、新白河駅、会津若松駅、会津田島駅)やサテライト会場となるフォレストパークあだたら、また開催市である南相馬市役所に設置されています。



(2) 苗木のスクールステイと苗木のホームステイ



「全国植樹祭」で植樹する苗木の一部を企業・家庭など県民の皆さんに育てていただく取り組みを行っています。市内の14世帯8企業と、12の小学校、支援学校に苗木を育てていただいています。

(3) 森林（もり）とのきずなづくり植樹リレー

県内各地で開催される植樹活動をリレーの形で結ぶ「植樹リレー」を行っております。平成28年6月に開催された第44回いわき市植樹祭から出発し、県内の市町村で開催される植樹活動を木製プレート・木製バトンでつなぎ、今年6月の全国植樹祭でのゴールを目指します。



4 第47回全国林業後継者大会2018福島大会 in いわき

全国林業後継者大会は、昭和45年5月に本県で開催された「林業後継者の集い」を先駆けとしており、以降、全国植樹祭の関連行事として開催されています。

今大会は、全国植樹祭前日の6月9日（土）午後、いわき芸術文化交流館アリオスで開催され、様々な立場から林業を担う人たちが一同に集い、諸先輩の生き方を学びながら、現在の先進的な取り組みや次の世代の林業に対する思いを共有して交流を図ることとしております。また、森林を育て木材を生産することはもちろん、地域づくりを担う森林づくりの後継者として意見を交わし、先人が伝えてきた豊かな森林を次世代へ継承する決意を全国へ発信するとともに、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故からの復興・再生に対する全国からの支援への感謝の意を伝えることとしております。

(森林林業部)



(合同庁舎内で開催 PR しています)

新規栽培セミナー「なし」開催！

〔2月16日（金）〕

上平窪集会所において、就農希望者4名が参加して、販売状況、栽培技術、営農サポートの講義と農場視察を行いました。

農場視察は、JA福島さくらいわき梨部会・部会長の草野富夫氏を訪問し、なし栽培の新技术「ジョイント栽培」「新文字仕立」を紹介いただいたほか、就農した時の経験談も話していただき、参加者の関心を集めていました。セミナー終了後には、「実家の果樹園を改良して農業をやっていきたい！」と個別に営農相談の申し出もありました。



（セミナーの様子）

今年度ベトナム輸出も実施した「サンシャインいわき梨」ですが、これからの産地の展開が期待されます！

（農業振興普及部）

第2回いわき農業普及推進懇談会

〔2月23日（金）〕

神谷公民館において、農業者と各関係機関・団体の意見や要望をいただき、農業農村の実態に即応した効率的な普及指導活動の展開を図る目的に当所主催で懇談会を開催しました。

まず、今年度の普及指導活動実績、新規就農者の確保、就農相談の状況と課題、JA福島さくらいわき梨部会のベトナム輸出の取組概要について説明し、続いて意見交換として、後継者の確保と育成、園芸産地の維持・発展への継続した取組、第三者認証GAP取得希望者への支援や指導などについて、活発に話し合いました。



（懇談会の様子）

その後、現地にて、農事組合法人稲郷神谷代表理事から施設イチゴの生産と就農希望者研修実施の経緯と状況等について説明いただき、イチゴの栽培状況も視察しました。

（農業振興普及部）

第3回いわき地方農地中間管理事業等推進連絡調整会議

〔3月6日（火）〕

いわき合同庁舎において、構成機関の福島さくら農業協同組合、いわき市、農業委員会、地域農業再生協議会、農業共済組合いわき支所、土地改良区、福島県農業振興公社等の担当者が参集し今年度の事業活用の実績（320haの集積）や重点地区の活動状況、平成30年度の重点地区候補等について情報を共有しました。



（会議の様子）

新年度の重点地区は、平成29年度から継続となる4つの地区（錦・関田、下仁井田、夏井、瀬戸）に、新たに川部地区、狐塚地区を加えた6地区となる予定です。引き続き、関係機関の連携を密にしながら、人・農地プランの作成を始め、認定農業者の育成確保、農地中間管理事業を活用した担い手への農用地利用集積を推進してまいります。

（農業振興普及部）

平成29年度福島県漁業士会研修会

〔3月9日(金)・10日(火)〕

相馬市内で、福島県漁業士会研修会が開催されました。漁業者28名の参加があり、初日は相馬双葉漁業協同組合で今年1月に設置されたシャーベット氷デモ機の運転状況を見学した後に、(株)水土舎の연구원と農林中央金庫福島支店の職員を講師に招き、「水産物の高付加価値化技術実証試験」と「新規漁業就業者支援制度」に関する講演を受けました。両課題ともに漁業者の関心は高く、シャーベット氷製造器の導入、維持費や支援制度の申請方法等に関して多くの質疑があり、活発な研修会となりました。



(シャーベット氷デモ機の見学)

翌日は、県が相馬市北部に整備している水産資源研究所(仮称)を視察しました。当施設

は震災以前に大熊町にあった水産種苗研究所・ヒラメ栽培漁業振興施設を復旧したもので、従前通り、ヒラメ種苗100万尾、アワビ稚貝100万個、アユ稚魚300万尾が生産可能です。

ヒラメ稚魚の放流は、漁業者自らが実施してきた取り組みのため、参加した漁業者の関心は高く、竣工の時期や、放流計画等に関して多くの質問がありました。

(水産事務所)



(講演の様子)

いわき市森林組合第48回通常総代会

〔2月24日(土)〕

グランパルティいわきで、いわき市森林組合第48回通常総代会が開催されました。

開会の挨拶において、田子代表理事組合長から、管内の森林整備をさらに進めるため、各地区の森林・林業の状況等に精通している人をアドバイザーとして任命する林業アドバイザー制度を導入する事や、三和地区の森林約6,800ヘクタールを対象に、環境に配慮し森林の持続可能な森林管理を認証するSGEC森林認証を取得する予定である旨の話がありました。また議事に先立ち、永年勤続職員の表彰といわき市森林組合林業コンクール入賞者の表彰式が行われました。



(いわき市森林組合田子代表理事組合長挨拶)

いわき管内の人工林は高齢級化が進み、まだまだ整備が必要な森林も多いことから、今回の林業アドバイザー制度の導入や森林認証の取得、さらに森林コンクールによる顕彰が森林組合員の皆さんの森林づくりの契機となり、いわき市の森林整備が促進されることを期待します。(森林林業部)

東京都日本橋の福島県アンテナショップ「MIDETTE」を会場にいわき地方振興局が主催した、「ふくしま いわき 大交流フェスタ」(3月9～11日)に当所職員も応援スタッフとして参加しました。このイベントは、いわき市の有名シェフや生産者と連携していわきの魅力を発信し、交流人口拡大、風評払拭、販路拡大を図ることを目的としています。

当所が参加したのは、磐城農業高校の学生と「HAGI フランス料理店」のオーナーシェフ 萩春朋氏によるいわきいちごのジャムづくり体験で、親子連れなど14名の参加者が旬のいわきいちご「ふくはる香」をたっぷり使ってジャム作りを体験しました。



萩シェフ(右)が自らオリジナルの作り方を伝授!

萩氏は、いわきの食材を使ったジャムなどの優れた加工品作りに取り組む「ジャムのエキスパート」として参加し、2月13日(火)には、磐城農業高校の学生たちに向け、オリジナルのジャムの作り方について事前講習を行いました。今回のイベントでは、そのうち3名の高校生が補助に入り、講習での学びを活かしました。



事前講習の学びを活かして高校生(右から2番目)がサポート

体験後に一同は、作ったジャムと高校生が製造したパウンドケーキを食べながら、高校生の取組やいわきの魅力などについて話し、交流を深めました。参加者からは「福島の高校生と直接話せるのは貴重な機会だ」との声も聞かれ、実りあるイベントとなりました。

体験後に一同は、作ったジャムと高校生が製造したパウンドケーキを食べながら、高校生の取組やいわきの魅力などについて話し、交流を深めました。参加者からは「福島の高校生と直接話せるのは貴重な機会だ」との声も聞かれ、実りあるイベントとなりました。(企画部)

トピック1

いわき産スギを使った木製掲示板を合同庁舎へ設置!

3月19日(月)、いわき合同庁舎東側階段3階部分に、いわき産木材を身近に感じていただくことを目的に木製掲示板を設置しました。設置後、じっと立ち止まって確認される方も増えており、3階エレベーター付近に設置した全国植樹祭や全国林業後継者大会用展示と併せて、広報・イベント周知に活用します。いわき産スギでFSC認証材※ですので、機会があれば触っていただき地元の木材を感じてみてください。

※FSC(森林管理協議会 Forest Stewardship Council) 認証材:1993年に世界自然保護基金(WWF)を中心に発足し、世界規模で森林認証を実施。FSCが定めた厳格な基準をクリアし、適切に管理されていると認められた森林からのみ伐採された木材になります。



頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.3

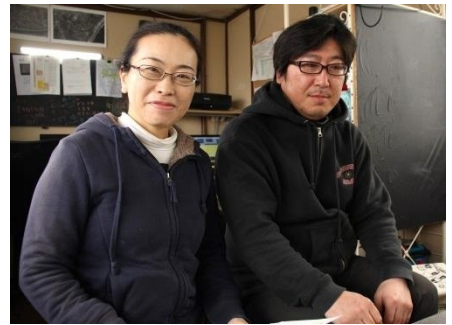
いわきの太陽とこだわりの土で、我が子のように育てています！

菊田の郷 助川農園 助川成光さん、弥生さん

前回取材にご協力いただいた小泉園の皆さんから紹介のあった、市内錦町のトマト農家・農事組合法人「菊田の郷 助川農園」へインタビューに伺いました！

「親バカですが、良く出来た我家の「自慢」のトマトです！」

弥生さん：私たちは、平成6年から「親バカトマト」というブランド名のトマトを栽培しています。「うちのトマトはおいしいよ！」という親心から名付けられた「親バカトマト」は、糖度が高く食味に優れた自慢のトマトです。助川農園では、約半世紀前からトマトの土耕栽培を続けており、土づくりへのこだわりから減農薬栽培を実現、私たちのトマトは「特別栽培農産物」*にも認証されました。現在は両親からノウハウを受け継ぎ、代表の夫と情報発信担当の姉と、引退後も元気に農業を続ける両親と家族で協力して取り組んでいます。



インタビューにご協力いただいた
助川成光さん(42)・弥生さん(41) 夫妻

*化学農薬の使用回数と化学肥料の窒素成分が、県が定める慣行使用基準の50%以下で栽培された農産物のこと。県では、農林水産省が定めるガイドラインに基づく第三者認証制度があり、認証機関に認証された農産物は、認証票を貼付し消費者に安全性をPRすることができます。



←認証票(見本)

農業の楽しさ・魅力を改めて実感

弥生さん：私は、一度は家を出て就職しましたが、両親を手伝うため、13年前にいわきに戻り就農しました。直売所の手伝いから始めて徐々に農作業にも関わるようになって、農業の楽しさが分かり、自分に合っていると思うようになりました。特に、土に触れながら、苗の生育を見ていくのが楽しくて、自分で何かをつくりだすことの喜びや達成感が農業の魅力だと感じています。



成光さん：平成20年に結婚して助川農園の後継者となってから、農家に生まれ育った経験を活かして日々励んできました。今では農園の代表として、妻と協力して経営しています。生業として、



目標を持って取り組んでいる農業には、大きなやりがいを感じています。

なお、一週間の計画、年間の計画をしっかりと立てることが大切ですが、そこに農業の一つのメリットがあります。例えば、計画通りに作業をこなし、日曜日は必ず休む、一年に一回、収穫のない時期には家族旅行に行くなど、休みの計画も自分で決められ、仕事と休日とのメリハリをつけることができます。

子どもたちも、親バカトマトが大好き！

弥生さん：3人の子どもたちもトマト栽培に興味を持ってきていて、幼稚園や学校から帰ってくると、手袋をはめて「手伝う！」と駆け寄ってきたり、箱詰めを手伝ってくれたりしています。少し意外かもしれませんが、新鮮なトマトにハチミツをかけてあげると、子どもたちは大喜びで頬張ります。身体を使う仕事ですから、農業には若い力が必要です。私たちの子どもを始めとして、どんどん次の世代に伝えていきたいですね。

農業をやってみたい！そんな人たちの橋渡しを

成光さん：今後の大きな目標として、新規就農者の育成に携わることができれば、と思っています。例えば研修農場のような役割だとか、農業に関心のある方をサポートし、就農への橋渡しをしたい。一緒に農業を楽しめる仲間が増えてくれたら、なにより嬉しいからです。そのためにも、農園の規模拡大は今後必要だと思っています。これからも家族で協力しながら、目標実現に向けて頑張っていきます。



農事組合法人 菊田の郷 助川農園

【直売所】

- 販売期間：11月～7月
- 営業時間：9：00～12：00、13：30～16：30
(4～7月は17：30まで)

日曜日、祝日午後はお休みです。駐車場有り。



新鮮なトマトがたくさん！
季節の野菜やお米なども
取り揃えています。

親バカトマトを贅沢に使った
トマトジュースも絶品です！



【ウェブサイト・facebook】

- Web：<http://suketoma.com/>
- Facebook：<https://ja-jp.facebook.com/sukegawanouen>
オンラインショップもご活用ください！

【親バカトマト通信（メールマガジン）】

トマトの生育や直売所の最新情報を月1回～お届け！
助川農園ウェブサイトよりご登録ください。

【お問い合わせ】

TEL：090-1407-2118 Mail：shop@suketoma.com
所在地：いわき市錦町馬場98



箱詰めトマトの
産地直送
承ります。

★農事組合法人「菊田の郷助川農園」は、3月20日にFGAP認証を受けました！（p.11参照）★

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年2月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成30年2月の農林畜産物モニタリングでは、検査した5品目13検体すべてにおいて放射性セシウムは基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。（企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

菌床しいたけ（施設）4、菌床なめこ（施設）2、ふきのとう（野生）1、牛肉 2、原乳 4

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（2月末現在）

制限、自粛	区 分	品 目
出荷制限	山 菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る*）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山 菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果 物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は平成29年9月11日に該当生産者6名のほ場に限り出荷制限解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成30年2月の水産物モニタリング検査では、635検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成30年2月には99.1%となっています。2月28日現在の出荷制限等指示魚種は（表）の10種類になっています。（水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	シロメバル	ピノスガイ
キツネメバル	スズキ	
クロダイ	ヌマガレイ	

平成30年2月28日現在

トピック2

県立いわき支援学校に木製ベンチを導入

3月14日（水）、県立いわき支援学校に木製ベンチ12脚を導入しました。

ベンチの導入には、森林環境税を財源とした「新「ほっと」スペース創出事業」を活用しました。ベンチの材料は、いわき市内の森林認証を受けた森林から生産されたスギ材を使用しております。



（実際に使用する様子）



（森林認証を受けたスギの木製ベンチ）

ベンチの選定にあたっては、先生と相談し、学校の授業や課外活動時に使用でき、小学部・中学部・高等部でも使用できるように複数の高さがあり、コンパクトなものとししました。

注意

山菜の出荷制限の取扱いについて

これから、山菜の発生・採取時期となりますが、採取者及び直売所担当者の皆様におかれましては、次の点に留意するようお願いいたします。

1 現在、いわき市産の山菜のうち、出荷が制限等されている品目は（表）のとおりです。

これらの品目は地域全体としての安全性が確認されていないことから、出荷制限等は今シーズンも継続しています。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、飲食店・宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により「基準値以下」であっても出荷・販売することはできません。

また、出荷制限等品目は、市町村ごとに定められていますので、福島県内のものは県のHP「ふくしま新発売。」(<https://www.new-fukushima.jp>)で、福島県外の場合は、厚生労働省のHP(www.mhlw.go.jp/sinsai_jouhou/shokuhin.html)を確認するか、森林林業部（TEL：0246-24-6193）にお問い合わせください。

2 いわき市産の出荷制限等品目以外の山菜については、県において緊急時環境放射線モニタリング検査を実施しており、今シーズンのモニタリング検査結果を確認の上出荷・販売するようお願いいたします。モニタリング検査の結果は、新聞や県のHP「ふくしま新発売。」

（表）いわき市産の山菜の出荷制限品目

制限、自粛	品目
出荷制限	たけのこ、ぜんまい、たらのめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る*）、こしあぶら
出荷自粛	さんしょう（野生のものに限る）

（<https://www.new-fukushima.jp>）で公表されます。（森林林業部）

*わらび（栽培）は平成29年9月11日に該当生産者6名のほ場に限り出荷制限解除されました。

注意

霜による農作物被害にご注意！

4月1日から5月31日まで、晩霜による農作物被害の防止及び事後対策のため「いわき地方防霜対策本部」を設置します。春は、ナシ、野菜苗などが凍霜害に遭遇する危険性が高くなります。この時期に農業災害が予想される場合は、適切な対策を行い、被害を最小限に食い止めましょう。（農業振興普及部）

注意

【春季山火事防止強調月間】山火事にご注意！

2月20日（火）、県いわき合同庁舎において、いわき地方山火事防止連絡協議会を開催しました。この協議会は、森林資源の維持と自然環境の保全を図るため、関係機関や団体が連携して、市民に対して山火事防止の啓発を実施していくことを目的に開催しています。会議では、いわき地方の山火事防止強調月間を春季は3月1日から5月10日まで、秋季は11月1日から12月20日までと設定し、のぼり旗の設置やチラシを入山者に配布する等の広報活動を実施していくことを確認しました。これからの季節は、空気が乾燥し火災が発生しやすい時期となり、特に、震災後入山を控えていた方が、山に入る機会が増え始めていることから、山では「火を使わない」ことを心がけて、山火事を起こさないよう十分注意してください。（森林林業部）



いわき地区に FGAP 認証第 1 号が誕生！

3月20日に福島市にて認証委員会が行われ、錦町の農事組合法人「菊田の郷 助川農園」が野菜（トマト）でFGAPの認証を受けました。また、3月23日に、JA福島さくらいわき菊田支店にて、FGAP認証書の交付式が行われました。FGAPは昨年の7月から施行され、福島県では現在6事業者が認証されており、いわき市ではFGAP認証第1号となります。

助川農園は昨年の12月から、普及指導員とともに昼夜を問わず認証に向けて準備を進めてきました。代表理事の助川氏は「FGAP認証をとれてよかった。GAPの取組みを消費者に知ってもらいたい。」と前向きな意見を述べられました。今後も、事務所一丸となって農業者のGAP認証取得を支援してまいります。



(交付の様子)

(農業振興普及部)

★農事組合法人「菊田の郷 助川農園」については、p.7～8でも紹介しています★

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に掲載された 6次化商品をご紹介します！

鈴木製麺(株)では、厳選素材と卓越した技術を活かした様々な商品を販売しています。今回ご紹介するエゴマの乾麺は、古くから健康に良い食品として親しまれるエゴマ(じゅうねん)を使用したおすすめ商品です。厳選された国産小麦粉に、いわき産を中心とした県産エゴマを練り込んでおり、茹でるとエゴマの香ばしさが広がります。ツルツルとしてコシがあり、茹で伸びしにくいのが特長です。これらの商品は、鈴木製麺(株)、マルト、ヨークベニマルでお買い求めいただけますので、是非お召し上がりください。



鈴木製麺(株) 鈴木社長

お問い合わせ

鈴木製麺株式会社

- いわき市四倉町字西二丁目6番地の3
- TEL.0246-32-2703●FAX.0246-32-7308
- Web:<http://suzukiseimen.co.jp/>



えごまめん

- 内容量:240g(2~3人前)
- 販売価格:330円(税抜)

そうめん・うどんの中間ほどの太さです。ざるでも、かけでも、一年通して楽しめます。



エゴマそうめん (3月~8月)

エゴマうどん(9月~5月)

- 内容量:200g(2人前)
- 販売価格:400円(税抜)

季節限定商品です。夏には冷やしそうめん、冬にはかけうどんどうぞ。

※写真/エゴマそうめん

「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」は「ふくしま6次化情報STATION(<http://6jika.com/>)」に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

事業紹介

「ふくしまプライド。」販売力強化支援事業について (旧 ふくしまの恵み PR 支援事業)

県内の団体による県産農林水産物の PR 活動等に対する支援事業が、名称を改め平成30年度も継続となりました。募集期間は4月中を予定しておりますので、ご興味のある方はいわき農林事務所企画部までお問い合わせください。

1 概要

県内の市町村、民間団体※、県域等農業団体が県産農産物の価値を伝え、販売・消費の拡大を図るため、国内において実施する県産農林水産物の販売促進活動等に対して支援を行う。

※県内に主たる事務所を置く特定非営利活動法人、事業協同組合、企業組合、公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人、農林漁業者や商工業者の組織する団体 等

2 事業内容・補助額

国内において実施する県産農林水産物の販売促進等の PR 活動。

民間団体事業補助額：上限750千円

※GAP による生産物の販売促進やパッケージの磨き上げを伴う場合には、さらなる補助を支給できる場合があります。

3 補助対象経費

国内において実施する県産農林水産物の販売促進等の PR 活動に要する経費※。

※事業委託費、広報費、旅費、資材作成費、デザイン費、試作費、ウェブサイト作成・維持費、調査費、イベント運営経費、謝金、保険料、施設借料、車両借上料、消耗品費 等



H29 年度活用事例
東京で県産農林水産物を PR

お問い合わせ

いわき農林事務所
企画部地域農林企画課

TEL
0246-24-6197
FAX
0246-24-6196



編集後記

助川農園のご夫婦へのインタビューで、親バカトマトにハチミツをかけると美味しいと聞き、実際に試してみました。意外な組み合わせですが、デザート感覚のさっぱりとした美味しさで、新たな発見となりました。助川さんは今月、いわきで初めて FGAP を取得し、新たなスタートを切られました。当所としてもいわきの農業をますます盛り上げるため、今後も連携して取り組んでいきたいと考えています。

平成29年度の日数も残りわずかとなりました。間もなく新年度を迎えますが、引き続きよろしく願いいたします。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース